



天目

来た時よりも美しく

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。こどもの頃、遠足や修学旅行の帰り際に先生から言われた記憶はないですか？「みんな掃除をしましょう。来た時よりもきれいに帰しましょう。」と。社会問題にもなっているゴミ。観光地に大量のゴミを残して帰るなど、マナーの問題もありますし、一人一人の心がけや美化意識の問題でもあります。建長僧堂では、ゴミ箱のことを護美箱と教わりました。2020年のオリンピックに向け、増え続ける外国人観光客には日本人の「来た時よりも美しく」の心、「護美」の心をもお土産として持って帰ってもらいたいものです。そのためにはまず、私達自身もつと美化への意識を高めていかななくてはならないでしょう。

さて、今回はこの表題の言葉を町の美化に限らず、人生に当てはめます。

広い宇宙の中で縁あってこの大地、この身体、この時代に生を受けました。それは自分で望んだものではないけれど、様々な縁が複雑に絡み合って生じた結果です。そんな大地や身体を「(生まれて)来た時よりも美しく」して後世に伝えるのは我々に与えられた人生の宿題です。自分のものだと思っているこの身体は、母なる大地の恵みが縁に従って姿かたちを変えているだけであり、いわば地球からの借り物。その身体を使って欲望のままに食べつくし、飲みつくし、痛めつけ、汚しきって地球にお返しするのでは命を繋いでくれたご先祖様に申し訳がない。そして限りある資源や豊かな大地の恵みを全て使い尽くして後世に引き継ぐのではそれこそ「ゲスの極み」です。

今年も西年。立つ鳥跡を濁さずのことわざもあります。訪れた場所を美しくして帰るのは大切なこと。同様に地球や宇宙という大いなる命からお借りしたこの身体で精一杯生き、心も身体もきれいに使って大地にお返しする、そしてその大地を来た時よりも美しくして後世に引き継ぐのもまた重要なことです。目に見えるものの美化と等しく、心の美化にも意識して人生を送りたいものです。それこそがまことの「美人」ではないでしょうか。

住職

青柳 真元



檀信徒の皆様へ

観音募金へのご協力
ありがとうございます

御喜捨いただいた浄財は観音様へと姿を変え、世界中の人々にその手をさしのべます。おかげさまで今年度は、

8,574,645円

の募金があり、

**熊本地震復興支援
東日本大震災復興支援
発展途上国の子供支援**

などに使わせていただきました。

熊本地震におきましては、巨福山観音基金からも**600万円**の観音募金を拠出いたしました。

引き続きご協力をよろしくお願いいたします。



平成28年12月 **建長寺 観音募金**

観音募金

皆様からのお布施やお賽銭の一部を建長寺の観音募金に寄付いたしました。

「いただいた募金は観音様へと姿を変えて世界中の人々のもとへ」の気持ちで募金活動を続けています。ご理解、ご協力をお願いいたします。

平成二十九年の予定

- 三月十七～二十三日 春季彼岸
- 四月十六日 摩利支天大祭
- 七月二日または九日 石庭草刈り
- 七月十六日 境内清掃
- 七月二十七日 盆棚経廻り
- 八月十三日 開山忌
- 九月二十～二十六日 盆棚経廻り
- 十月八日 秋季彼岸
- 十月七日～九日 大施餓鬼会
- 十月十四日 宝物風入れ展
- 十一月十二日 九州国立博物館にマニ像絵画を展示
- 十二月三十一日 除夜の鐘

臨済宗の和尚様②

臨済禅師

「臨済宗を開いた人は誰ですか？」との質問をよく受けます。「栄西さんですか？」と。栄西は日本に臨済宗を伝えた和尚様ですね。栄西禅師については天目18号をご覧ください。臨済は臨済義玄という中国人の和尚様で、日本には来ていません。

禅の教えは釈迦に始まりますが、独自の宗旨と教団をそなえた宗派としての禅宗は中国で成立したもので、その初祖は菩提達磨（ぼだいだるま）とされます。達磨は六世紀の初め頃にインドから中国に渡来し、その教えは代々伝えられていきました。唐代末期（九世紀）には数多くの高僧が現れ、中国的な禅思想が確立します。なかでも峻烈な家風をもって知られる臨済義玄を宗祖とする臨済宗は、その下にさまざまな門派が次々と興起し、今日の日本における臨済宗十四派につながります。

臨済義玄は没後一一五〇年を迎え、京都の本山や鎌倉建長寺でも大法要が行われました。東京国立博物館に普応国師坐像の展示を許可したのも、その特別展への協力のためです。



臨済義玄

※禅——心をかたちにした——の図録参考

普応国師 御帰山

当山所蔵の重要文化財、「普応国師坐像」が東京上野の国立博物館で行われた特別展での約四十日間の展示を終え、十二月九日に無事御帰山されました。

私も前期、後期で二回見に行きました。期間中は約十三万人の入場者数だったとの報告をいただいております。

※坐禅会、法話、写経会、境内案内等、可能な限りお受けします。電話でお気軽にお問い合わせください。